

鹿大ジャーナル

鹿大広報

鹿児島大学が発信する最先端情報マガジン

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/>

特集

地方創生に向けた鹿児島大学の使命



08 潜入ルポ ~学びの部屋~

**食後の歯磨きが必要なワケ。
口と顔の「常識」を科学する。**
大学院医歯学総合研究科 松口 徹也 教授

10 先輩からのメッセージ

**OB: 株式会社 島津興業
尚古集成館館長 松尾 千歳さん**

12 研究室からSCHOLAR INTERVIEW

島は世界の縮図
国際島嶼教育研究センター長 河合 溪 教授

出土品が伝える先人たちの息吹
埋蔵文化財調査センター 新里 貴之 助教

16 鹿大トピックス

**学生表彰
全学必修科目「大学と地域」スタート
鹿大「進取の精神」支援基金への寄附者一覧** ほか

23 進め! 鹿大生

**世界の海からやってくる
「ニューフェイス」たちの名付け親**
大学院連合農学研究科1年生 福井 美乃さん

さつつんが行く!
鹿児島大学病院救命救急センター 高気圧酸素治療装置

地方創生に向けた鹿児島大学の使命 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)

地方創生の背景とは？

わが国の人口は2010年の1億2806万人をピークとして、2050年には9708万人に減少し、高齢化率は38・8%になると予測されています。大幅な人口減少は地域経済の縮小を引き起こし、さらなる人口減少を加速させるという負のスパイラルが懸念されています。現状を見ても、地方からの若者の流出は進んでおり、とりわけ高校卒業時および大学卒業・就職時に若い世代が大都市へ流出する動きが顕著です。

地域活性化の中心となる「人」の育成と、地元での雇用の増大、新規事業創出などの対応策が求められています。

地方創生と大学の関係

鹿児島大学は、地域に立脚した総合大学の使命として、地域社会との連携を図りながら地域課題の解決や地域振興を視野に入れた取り組みに力を入れてきました。2014年度には文部科学省の「地(知)の拠点

(Center of Community) 整備事業」に採択され、かごしまCOCセンターを開設。自治体と協力しながら地域課題の解決と地域人材の育成を目指しています。

COC事業を発展させたのが、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)です。この事業は、「食と観光で世界を魅了する『かごしま』の地元定着促進プログラム」として2015年度に採択されました。本学では、産学官連携推進センターにCOC+推進部門を設置し、県内の大学、短大、高専、行政、企業団体の「オールかごしま」体制によっ

て、地域人材の育成と学卒者の地元就業および定着への取り組みを行っています。

地域志向型の教育への取り組みが始動！

COCおよびCOC+事業において、とくに大学が担う使命は、地域が必要とする人材を養成するための教育カリキュラムの構築・実施です。かごしまCOCセンターでは、

2016年度から全学必修科目「大^学と地域」10科目を開講。歴史・文化、自然、産業など地域の特徴や課題について理解を深め、地域志向力を醸成する取り組みを実施しています。COC+推進部門では、地域人材の育成、人材の地元定着への支援、新規雇用の創出および既存雇用拡大という3つのミッションに沿って事業を遂行しています。以下、3つのミッションについて紹介します。



「雇用創出と若者定着に関する協定」協定書調印式(2015.12)



キックオフシンポジウム(2016.3)

Mission 1

教育改革を推進し、地元で活躍 できる資質を備えた人材を養成

鹿児島大学の地域人材の育成
「かごしまキャリア教育プログラム」

COC+事業の参画校は、本学のほか鹿屋体育大学、鹿児島国際大学、志学館大学、第一工業大学、鹿児島県立短期大学、鹿児島女子短期大学、鹿児島工業高等専門学校との8校です。本学では「地域の課題や魅力を理解し、率先して現場のパフォーマンスを高め、組織及び地域の発展に寄与することのできる中核的存在」を目指す人物像として掲げ、「かごしまキャリア教育プログラム」を編成。2016年度には1年生を対象とした「地域就業キャリアデザイン」を開講しました。企業人を授業に招き、学生と社会がつながる工夫を凝らしています。

学生の有意義な将来を見据えた 授業展開

このプログラムで目指したことは①自己の人生を有意義にするため、目標を持ち自覚的に行動する態度の

形成 ②自己と社会について理解を深め、より良い選択をするための情報収集能力の習得 ③地元でのキャリア実現に必要な能力に対する理解と意欲の醸成です。

学生の自発的な意欲と地域志向力を高めるための工夫として ①グループワークを中心としたアクティブラーニングの導入 ②事前事後学習の徹底 ③地元で活躍する企業人との交流・コミュニケーション機会の創出など、趣向を凝らした授業を展開しています。

授業の質を高める教員の取り組み

授業は回を重ねるごとに進化していかねばなりません。そのためには教員自身が勉強し続ける必要があります。私たちは「COC+担当教育者会議」を構成し、FD(教育改善活動)に取り組んでまいりました。ほぼ毎週、授業終了後に集まり、情報交換を含めアイデアを出し合う機会を持っています。授業の質を高め、なるべく良い授業を学生に提

供するためです。

興味・関心の幅が広がった学生

この地域就業キャリアデザインの授業を通じ、学生の興味関心の幅、選択肢が明らかに広がり、キャリア形成の目標が鮮明になったことが感じ取れます。また、キャリア形成に必要な能力とそれを伸ばすための方策についても明確になり、積極的な学びの姿勢が高まっています。そのことは、学生が作成する種々のレポート、意見発表、授業評価から読み取れます。

授業によって得られた知見、獲得した力を鹿児島のみならず、さまざまな地域で生かしてほしいと願っています。



産学官連携推進センター COC+推進部門
部門長/特任教授 井上 佳朗

「かごしまキャリア教育プログラム」概念図



Mission 2

地方創生の中心となる「ひと」の 鹿児島島の就業・定着を支援

県内企業と
学生をつなぐ橋渡し

昨年6月、本学の3年生および大学院1年生を対象に、就業希望先についてのアンケート調査を行いました。結果を見ると、県内が約3割、九州内や出身県が約4割、大都市圏が約2割、どこでもよい、わからないという回答が約1割ありました。県内での就業を希望する学生の大半は公務員を挙げていましたが、その理由は、県内企業を知らないことにあると考えられます。また、県内企業と学生調査の結果から、企業の情報発信方法と学生の情報収集方法に乖離があることが明らかになりました。そこで、両者のマッチングを促進するために、現在企業人と学生とが協力して、カードゲーム型の就職支援ツールの開発をしています。県内就業率を向上させるには、大学も企業も学生のニーズを把握し、学生にとって魅力的な情報を届けることが大事だと思っています。



産学官連携推進センター COC+推進部門
特任助教/学生支援コーディネーター
牧野 暁世

多様な生き方の中から 自分らしい選択を

多くの学生は「就社活動」をしていくように感じます。就業は、企業に入ったら終わりではなく、むしろ真に主体的な人生の始まりだということをお忘れなでほしいです。中には、知名度を気にして大企業、大都会を志向する学生もいますが、地域就業には人、時間、地域資源、ビジネスチャンス、生きがいなどの面ですさまざまな可能性や魅力があります。たくさんの選択肢の中から自分らしい生き方を実現するために、就業先を選択してほしいと思います。

Mission 3

既存雇用に加え、新規事業創出に より新たな就職先を創出

オールかごしまの核としての
鹿児島大学の役割

COC+推進部門では、COC+推進コーディネーターを中心に、各参加校のコーディネーターと協働しながら事業の全体的な動きを把握し、事業推進を図ります。地元企業に対しCOC+事業について周知するとともに、学生のインターンシップの受け入れや就業先の拡大を行っています。

仕事の先に描ける夢を

地元企業から聞かれるのが「求人を出しても学生が来てくれない。内定を出しても断られる」という声。学生が地元企業のことをよく知らないということも一因です。学生が常に地元企業の情報を得ることができるといってもいいかもしれません。訪れる機会を増やしたいと思います。一方では、企業の積極的な取り組みも必要です。学生に分かりやすい求



COC+推進コーディネーター
遠矢 良太郎

人情報や冊子づくりの努力が不可欠です。地元企業は、大手企業に比べると給与や待遇面で見劣りすることもあります。仕事を通じて学べるものや、働く先にどんな夢を描くことができるのかということ伝えていく必要があります。新たな雇用を産み出すこともCOC+事業の大きな柱です。鹿児島県には、大学発ベンチャー企業、研究開発型企業、誘致企業等が多く存在し、地域資源を活かした食や観光を中心に関連産業の新規雇用創出が期待されています。産学官金の連携およびコーディネーターの人的ネットワークを活かして、オールかごしまで新たな雇用の創出も目指します。

「地域就業キャリアデザイン」カリキュラム(2016年度)

	テーマ	取り組み内容
第1回	今の自分を知ろう	オリエンテーション、自己診断実施など
第2回	鹿児島の現状や地域の取り組みについて知ろう①	自治体からの講師による講義
第3回	鹿児島の現状や地域の取り組みについて知ろう②	地元企業からの講師による講義
第4回	就職に向けた企業調査の方法	企業調査の方法の理解
第5回	企業情報の収集方法	得られた企業情報の報告と解説
第6回	企業調査(インタビュー)のための質問設定	質問カードを使った質問作成トレーニング
第7回	模擬インタビュー	模擬インタビューによるロールプレイ
第8回	実践インタビュー	企業人へのインタビュー
第9回	企業調査(インタビュー)の成果報告	インタビュー成果の報告

	テーマ	取り組み内容
第10回	10年後の働き方について考えよう	ライフステージ、ライフイベントについてのグループワーク
第11回	キャリアデザインって何だろう	自己分析のためのグループワーク
第12回	職業適性と具体的な職業について考えよう	自己理解・他者理解から見た職業適性についてのペアワーク
第13回	就業に必要な能力とは?	就業に必要な能力についてのディスカッションと発表
第14回	若手企業人との情報交換会	若手企業人による話題提供、意見交換
第15回	自分のキャリアデザインを発表しよう	キャリアデザインの個人発表

2016年度の「地域就業キャリアデザイン」では左記のようなカリキュラムを実施しました。授業の中では、事前アンケートで学生に最も知名度の低い業種に関わる企業の方々とお話しして学生との交流を持っていたきました。

「興味がない」が「面白そう」に変わるとき、選択肢が広がる!

～企業人がいま学生に伝えたいこと～

「地域就業キャリアデザイン」に協力していただいた企業人の声を伺いました。



「視野を広げ、新たな視点で様々な職業や働き方を知ってほしい」

株式会社 富士通鹿児島インフォネット 事業推進部 寺原 敏宏さん

きつい、帰れない、厳しいというイメージで捉えられがちなICT業界ですが、それは一昔前のこと。今ではとても働きやすい環境のなかで、当社では、医療、金融、流通をはじめ暮らしのあらゆる場面において、ICTを駆使してシステムを提供し社会を支えています。パソコンと向き合う理系の仕事というイメージかもしれませんが、社内の3、4割は文系出身者です。大切なことは、企業や生活者が何を求め、どうしたらもっと人が幸せになるか、という創造力と発想力。ネットスーパーなどもそういった発想から生まれてきたものです。早い時期から視野を広げ、新たな視点で様々な職業や働き方を知ってほしいと思います。

「どんな環境であっても自分次第。長期的な視野で選択を」

南国殖産株式会社 人事部 西村 文孝さん

就職先を選ぶということは、人生の主たる舞台を選ぶということです。漠然と、東京には大きな仕事があるように感じる人もいますが、今は地域によって仕事内容が違う時代ではありません。地元企業である私たちも、大手企業と取引を行い、パートナーシップを結ぶなど共に仕事をこなす機会も多数あります。また長期的に人生を眺めた場合、子育てや結婚、親の介護など、故郷にいるからこそそのメリットもあります。まず地元どんな業界、仕事があるのかということを知ってから選択してほしいと思います。どんな環境にあっても目の前の事にひたむきに取り組む姿勢がある人は、伸びるものです。

「暮らしの根幹を築く大切な仕事。共に働いてほしい」

鎌田建設株式会社 専務取締役 鎌田 安典さん

「男性の職場、重労働」というイメージがつきものの建設業ですが、最近ではドローンやICT建機など先端技術の導入によって、重労働や危険な作業はかなり軽減されています。女性の起用も進み、わが社でも女性設計士が活躍しています。そのようなお話をしたところ、文系の女子学生から「かつて設計士の夢を抱いていたが、再度興味が湧いた」という声も返って来ました。災害復旧に貢献し、街のインフラを整備する役割を担う建設業ですが、30歳未満の就労が10%と高齢化が進んでいます。一人でも多くの若い人に情報を正しく伝えて、地元建設業への就労拡大がはかれればと思います。

「会社の運営には多岐にわたる職種が必要」

日本ガス株式会社 総務グループ 迫 浩一さん

ガス会社の仕事は、ガス器具の取り付けや修理というイメージで概ね捉えられており、とくに文系の学生さんには敬遠されがちです。ガス供給がメインではありませんが、エネルギーをお使いいただくための提案活動(営業)や料理教室の運営、最近では電力小売り、家事代行サービスなど多岐にわたる事業を展開しており、さまざまな業務があります。授業でそのような現状を伝えたと、「イメージが変わった。就職先として考えたい」という声がかれました。就活の際もイメージだけで決めつけるのではなく、いろんな会社や人に出会い、自分に合うところを探してほしいです。それが早期離職を防ぎ、充実した人生につながっていくと思います。

鹿児島大学COC+事業活動の軌跡

〜オールがごしまで行う地域人材育成〜

2016年度から本格的にスタートしたCOC+事業。大学、地域の取り組みがきっかけとなり、学生たちの中に自発的な活動が生まれています。これまでに実施された取り組みを紹介します。

第1回 「がごしまCOC+ワークショップ」

COC+推進部門では2016年5月、卒業生と在学生との交流ワークショップを開催。地元企業等に就職している卒業生8名と鹿児島大学をはじめとする県内の大学から17名の学生が参加しました。

先輩からのメッセージに続き、COC+教育担当教員をファシリテーターとしてキャリア教育や就職支援のあり方などについてグループワークを行い、卒業生と在学生がそれぞれの立場からディスカッションしました。まとめとして、各グループから人間力やコミュニケーション能力を磨く授業の必要性などについて提案がありました。



就活応援フェア 「合同就職面談会&就職講座」

鹿児島県若者就職サポートセンター主催、COC+推進部門および就職支援センター協力による就職講座・就職面談会が2016年6月、開催されました。地元企業

105社と大学・短大・専修生を含む若者278人が参加。「企業が求める人材とは」と題した就職講座のほか採用担当者のアドバイスを、若手社員との就活体験談などを直接聞く交流会も開かれました。



鹿児島銀行と学生でつくる 地方創生プロジェクト 「明日誰かに話したくなる企業の話」

鹿児島銀行主催、COC+推進部門共催による交流会が2017年1月開催され、企画から運営まで学生が携わりました。県内企業48社と学生約270名が参加。各社の担当者を学生が囲み、小グループによる意見交換会が行われました。

「一般的な会社説明会では一方的な企業情報の提供に終わることが多いが、少人数によるきめ細かな情報交換が実現し、得るものが多かった」との声が企業、学生双方から聞かれました。



学生の声

地域就業キャリアデザイン受講生
農学部1年生 東弘菜さん

私は鹿児島で就職したいと考えており、地域就業についての理解を深めるために地域就業キャリアデザインを受講しました。授業の中で、鹿児島の企業人に話を聞く機会があり、地域での就業は心理的、肉体的、物理的に豊かな生活につながるということがわかりました。地元で素敵なキャリアを築くため、私はがごしまキャリア教育プログラムをすべて受講しようと考えています。



「KAGORA」代表

法文学部3年生 若松香澄さん

2年生の春休みに県内の農業法人でのインターンシップがきっかけとなって、社会人と学生をつなぐ活動を思い立ち、「KAGORA」を立ち上げました。COC+推進部門の助言もあり、平成28年度「進取の精神チャレンジプログラム(地方創生部門)」に採択され、地元で働く社会人と学生の交流イベントを実施してきました。興味深い企業人の人生観や職業観を取材した冊子も発行しました。鹿児島が好きだからこそ、いろいろな経験をして地元で活躍できる人になりたいと思います。



地方創生と「かごしまCOC+事業」

[1] 事業の目的

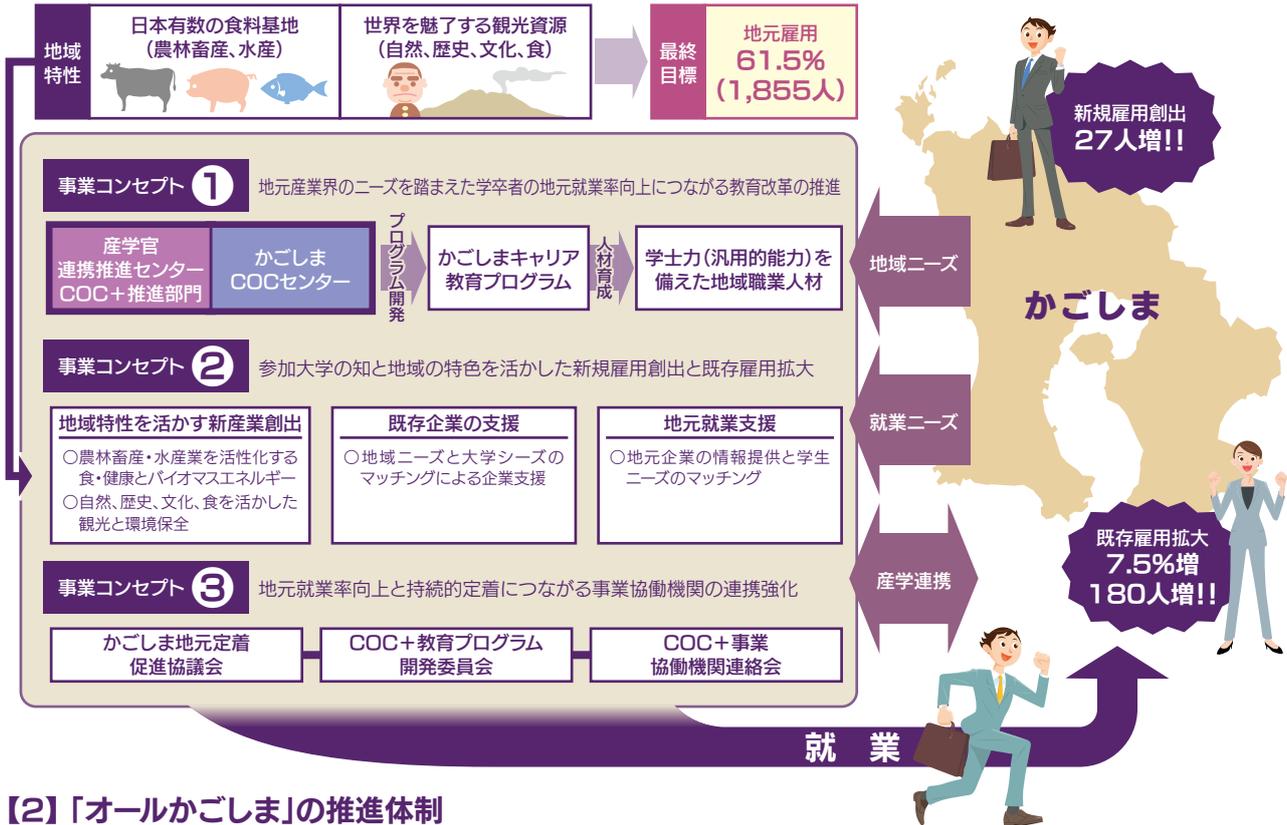
- ①教育改革を推進し、地元で活躍できる資質を備えた人材を養成する
- ②地方創生の中心となる「ひと」の鹿児島で就業・定着することを支援する
- ③既存雇用の拡大に加え、新規事業創出による新たな就職先を創出する

COC+事業最終目標値

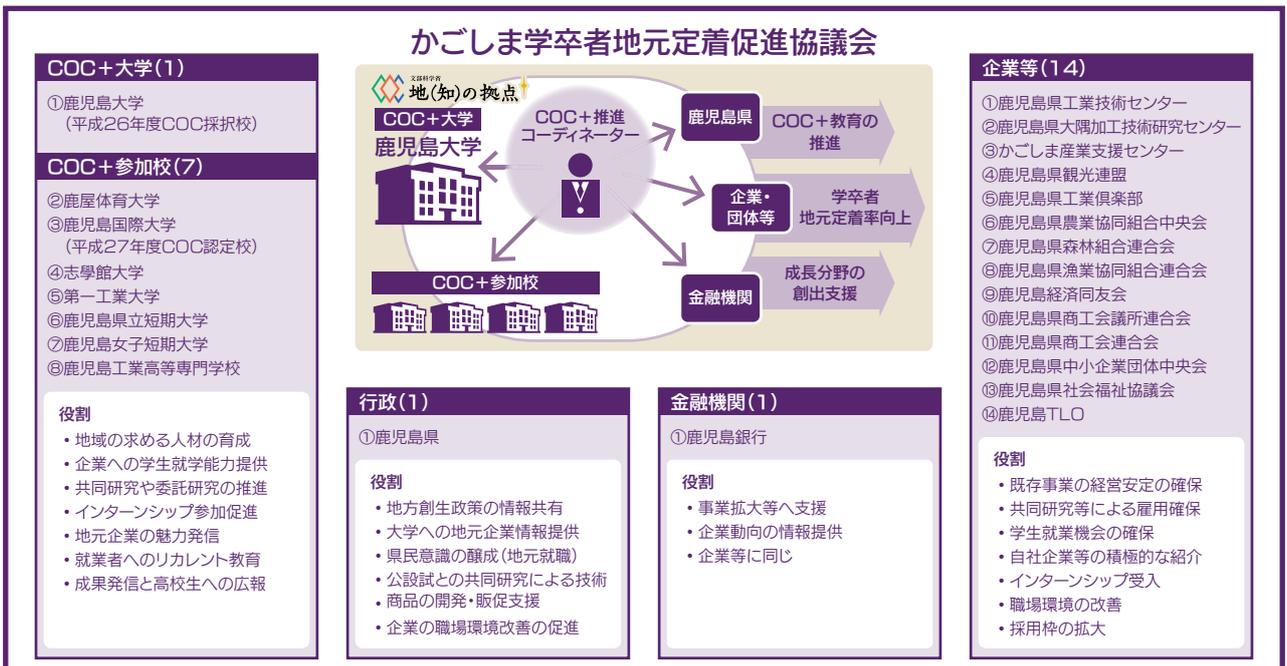
COC+参画校(鹿児島大学、COC+参加校)の県内就職率



食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム概念図



[2] 「オールかごしま」の推進体制





潜入ルポ

～学びの部屋～

食後の歯磨きが必要なワケ。
口と顔の「常識」を科学する。

Lecture of the University



口腔生化学分野のラボメンバー

「口と顔の科学」(共通教育科目)

医歯学域歯学系
大学院医歯学総合研究科

口腔生化学教授

松口徹也 先生

ふだん口腔内の健康に対してあまり注意を向けることもないが、ひとたび歯の痛みに見舞われると、小さな歯が人の生活にとってどれほど大切な働きをしているか気づくもの。食べる、飲む、しゃべるなど、人の生活の中で重要な役割を果たしている口の中や顎、顔面についての学びを深める目的で開講されているのが共通教育科目「口と顔の科学」。

授業は全学部の子生と公開講座受講の社会人を対象として、複数の歯学部教員のオムニバス形式で展開。最近のトピックスを交えた歯科医学情報を学ぶことができる。今号では、松口先生の「むし歯を化学する」をレポートする。

水晶と同程度の硬度を持つ 歯の表面

「むし歯菌というのは本当に存在すると思いませんか? 甘いものを食べるとむし歯になると言われますが、なぜでしょう?」。授業の冒頭、歯に関する正しい情報をどれくらい知っているか、松口先生は学生に問いを投げかける。歯周病とむし歯という

口中の二大疾患の一つである「むし歯(う蝕)」がこの日のテーマだ。先生からの問いかけによって「知っているつもり」で知らないことが意外と多いことに気づかされる。

歯の構造についての解説に続き、むし歯が最初に発生する歯の表面、ENAMEL(エナメル質)の硬度について話が進む。「およそ6割が水でできている人体の中で、歯と骨は、ほぼ7割が無機質という『硬組織』です。中でも歯のエナメル質は95%が無機質。水晶と同程度の硬度を持ちます」。ものを噛む時、奥歯にかかる力の最大は、その人の体重とほぼ同程度であるという。毎日、鏡で見ている歯の表面が、鉄より高い硬度を持つ水晶と同レベルという話に、人体の神秘を改めて感じさせられる。

むし歯はなぜ作られる?

「水晶と同じくらい硬い歯の表面が、なぜいとも簡単に壊れるのでしょうか?」。講義は今日の本題に入っていく。

「歯垢には1グラムあたり一千億個、天文学的な数の細菌がすんでい

ます。歯磨きをしても、薬用うがい液でうがいをして、消すことはできません」。口の中にはミュータンス連鎖球菌をはじめとする500種類くらいの細菌がすみついており、糖分を養分としてネバネバした不溶性グルカンを作り出す。このネバネバした物質が歯に付着したものが歯垢だ。低酸素状態が保たれる歯垢の内部では、むし歯菌による発酵が起きる。発酵によって酢や焼酎が造られるように、口の中では酸が生成される。その酸がENAMEL(エナメル質)を溶かすのだという。教室のスクリーンには、酢の入った容器の中で歯が溶けてゆく実験映像が映し出される。授業が終わったら、歯の全滅は叶わなくとも、念入りに歯磨きをしようという気持ちになる。

生活習慣を支える動機

「むし歯菌と糖、どちらが欠けてもむし歯はできません。けれど、むし歯菌と砂糖の2つがそろえば誰でも均等にむし歯になる、

というわけではありません」。予防への関心がぐっとかき立てられる。「宿主のファクター、つまり、皆さん自身の習慣、心がけが大いに関係します」。口中にむし歯菌が存在しても、食習慣、歯磨き習慣によって予防できること。唾液には洗浄・中和作用があること。キシリトールを代表格とする非う蝕性甘味料には効果があること。など生活に取り入れることのできる情報が伝えられる。

「単に甘いものを食べるな、歯磨きをしなさい、と言われるより、体に何が起るのかを知っている方が、生活の習慣、行動を変える動機になりやすい。受講されている社会人の方には周りの方にも伝えていただきたいと思っています」。松口先生は授業の意図を語る。提供される科学的知識は、受講生の健康習慣を支える強い動機になるに違いない。

Profile



松口 徹也 (まつぐち・てつや) 教授

1984年九州大学医学部卒業。1989年九州大学大学院医学研究科博士課程修了(医学博士)。米国ハーバード大学研究員、名古屋大学医学部助教授を経て、現在、大学院医歯学総合研究科健康科学専攻発生発達成育学講座口腔生化学分野 教授 [所属学会] 日本内科学会、日本免疫学会、歯科基礎医学会、日本生化学会、日本骨代謝学会 [専門分野] 免疫、Toll様受容体、サイトカイン、骨芽細胞、シグナル伝達、リンパ球、マクロファージ、細胞分化 [研究テーマ] ①免疫担当細胞機能の分子調節機構 ②硬組織代謝に関わる骨芽細胞の機能・分化調節機構



株式会社 島津興業

尚古集成館館長 松尾 千歳(まつお ちとし)

福岡県出身。1979年 鹿児島大学法文学部人文学科入学。1983年 鹿児島大学法文学部人文学科卒業（日本史学）。尚古集成館に入館。文化財課長、副館長を経て現職。鹿児島大学非常勤講師（日本文化史担当）

著書：『島津家おもしろ歴史館』尚古集成館1991年、『港湾都市鹿児島と島津氏—海を見ていた殿様たち—』（共著）尚古集成館2012年、『西郷隆盛と薩摩（人があるく）』吉川弘文館2014年など



世界につながり近代化をリードした薩摩の壮大な歴史を知るほど、
 専門家として地域にきちんと情報を伝える大きな使命を感じます。

福

岡出身の松尾さんが
 鹿児島大学への進学を

決めたのは「歴史好きにとっ
 て輝いて見える鹿児島」で学
 びたかったから。「五味克夫
 先生（名誉教授）には在学
 中はもちろん、卒業後も大
 変お世話になりました。日本
 史を学ぶ基礎を教えていた
 いただけではなく、各地の史
 跡巡りにも毎月のように同行
 させていただきました」。歴
 史を学ぶには、文献を読む
 だけではなく、実際に現地
 を訪れて雰囲気や景観、地
 名、伝承などまで取り込み、
 立体的に物事を見ることが
 大切だということを五味先生
 から教えられた、と松尾さ
 ん。先輩、友人にも恵まれ、
 どんぐり横丁を飲み歩いたこ
 とも良い思い出という。

卒業後、島津家・薩摩藩
 に関する資料を収蔵する尚
 古集成館に学芸員として就
 職。30年以上にわたり鹿児
 島の歴史・文化に関する調
 査・研究・広報活動に携わっ
 ている。
 「先進の文化、技術は江戸

や京都など中央で生まれ、
 辺境の地である鹿児島へは遅
 れて伝わってきた、というイ
 メージがありますが、文化財

が語ってくる歴史は全然違
 います」。研究を深めるほど、
 一般的な歴史観には誤解が
 多いことを松尾さんは痛感
 してきた。「かつて海外の諸
 国は、鹿児島を日本の入り

口にある町と目しており、南
 九州にはたくさん外国船
 が来ていたんです」。唐湊
 （トソ）や唐人（唐仁・トウ
 ジン）、当房（唐坊・トウボ
 ウ）といった地名が県内各地
 にあるが、これらはかつての
 中華街の名残なのだという。

「国内で見ると鹿児島は辺
 境に位置しているかもしれま
 せんが、辺境にあるというこ
 とは海外と接していること。
 先進的で異国情緒あふれる歴
 史・文化が育まれてきたので
 す。この風土の中で醸成され
 たのが鹿児島の標榜する『進取
 の気風』で、その気風の中で
 学ぶことができるのが鹿児
 島の良さです」。他県との風土の
 違いに気づくことができるの

は県外出身者のアドバンテー
 ジ、と松尾さんは笑う。

松尾さんは多忙を縫って本
 学の非常勤講師として教壇に
 立つほか、県内各地の学校に
 出向き歴史の授業をこなして
 いる。県教委に働きかけ、小
 学生向けの歴史副読本の制
 作にも携わった。

年号を覚えることが歴史
 の勉強ではない、と松尾さん
 は言う。「人と人、地域と地
 域との交流は、歴史・文化
 の衝突でもあるわけです。自
 分たちの歴史・文化をきち
 んと知らないと、流されて
 相手の文化に飲み込まれて
 しまいます」。その土地にし
 かない物や言葉を手放し、
 東京を真似る街に魅力があ
 るだろうか、と松尾さんは
 問いかける。

「観光は、光を観る、と書
 きます。その土地が輝くと、
 自ずと人はやってくるもので
 す。まずは地元の人に、壮
 大な鹿児島の歴史を知ってもら
 い、誇りを持って輝いてほし
 い」。心に響く先輩からの珠
 玉のメッセージである。



研究室から



SCHOLAR
INTERVIEW

島は世界の縮図

～島嶼における人と自然の関係をとらえる学融的アプローチ～

県内及びアジア太平洋の島々における本学の研究・教育活動の核を担うのが国際島嶼教育研究センターである。「島はひとつの世界」として文系・理系分野の専門家が手を携え、分野横断的なアプローチによる研究を推進。教育においては大学院における全学横断型教育プログラムを開講、グローバルな視点をもつ人材の育成に力を入れている。「島嶼における人と自然の関係を」をテーマに研究を続けるセンター長の河合先生に、その活動について伺った。

分野を超えた

「学融」的研究への取り組み

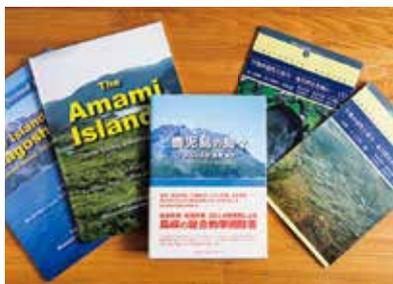
貝類を専門とする生態学者の河合先生は、経済学、海洋学、社会学の研究者とともに、フィジー諸島での貝の利用をめぐる研究活動に10年以上取り組んでいる。「フィジーの人たちが食用にする通称カイコソという二枚貝 (*Anadara spp.*) を研究の軸にしています。この貝の生態調査と同時に、人がどのように採取し、どのようなルールの中で利用、消費しているのかということなど、共同体の性質との関連性を含めさまざまな角度から解析し、ひとつのシステムとして捉えようという研究です」。貝を採ることが自然環境に与える影響、資源利用についてのアイデアなど、将来的に研究成果を社会にフィードバックさせることも目的のひとつにある。

この研究において重要なポイントは、文系・理系にわたる多分野の専門家が協力して「学融的」に研究することだと河合先生は言う。「分野の異なる

学問を、まず同じ土俵にのせることが難しい。全てを数値化してみたり、とさまざまな試みを繰り返しながら、学問と学問を融合させていく方法について探っています」。島というひとつの世界を捉えるには、学融的なアプローチが欠かせないのである。

貝と人の食生活 が変える島の地形

県内の島々における「人と自然」の研究の一例として、先生は喜界島とクンマー(ヒザラガイ)の関係を教えてくれた。「ほかの島でも食べますが、とくに喜界島では好んで食べられています。ゆがいて身を酢味噌で食べると酒の肴に最高だそうです」。岩場に棲むクンマーは、岩についた藻類や小さなフジツボなどを捕食する習性をもつ。夜になると岩陰から這い出し、口の中の歯舌というおろし金のような器官を動かして、岩を削り取りながらエサを食べる。「年間最大2mmというスピードで隆起を続ける喜界島の沿岸部で、クン



二枚貝 (Anadara spp.)



Scholar Interview

河合 溪 教授

学内共同教育研究学域学内共同教育研究学系
国際島嶼教育研究センター長

Profile 河合 溪 (かわい けい)
北海道大学水産学部卒業。博士(水産学)・北海道大学・1993年9月
■所属学会: 日本島嶼学会、日本貝類学会、日本ベントス学会、日本生態学会
■専門分野: 動物生態学・海洋生物学
■研究テーマ: ○人と自然との関係 ○巻貝の生態 ○島嶼 ○DNA多型



マリの棲む地域だけは、隆起しながらも日々少しずつ削り取られている。その一方で、人がクンマーを漁獲するという不思議な関係があつて、複雑な小さな地形の変化が日々起こっているのです。生き生きと語る先生の臉には、島の岩場に棲む小さな貝の姿と、その貝を美味しそうに食べる人の姿が映し出されているに違いない。従来、ウニの及ぼす微地形への影響については研究者の間で広く知られていたものの、ヒザラガイのもつ微地形への影響力についてはあまり知られていない。河合先生はその複雑な関係に関心を抱き、研究を続けている。

鹿太の研究成果を世界へ

センターに所属する4人の専任教員とおよそ70人の兼務教員とが協力して研究を進め、成果の情報発信に力を入れている。2015年には研究を英語版で集大成した『The Islands of Kagoshima-Culture, Society, Industry and Nature』を出版したのに続き、2016年に

は『The Amami Islands-Culture, Society, Industry and Nature』を発売。今後も大隅諸島、トカラ列島、甑島の英語版の書籍を発売する予定だ。「インターネットサイトで販売しているので、島の情報が世界中どこへでも届けられます」

センターでは、島の研究成果を通じ、世界の諸問題への提議をも目指す。「ひとつの島に、行政があつて、森があつて、海がある。僕らが生活している空間が凝縮して存在している」。島は「世界の縮図」なのだという。「ひとつの島を多角的に見ることで、社会システムをシンプルに見ることができ、地球温暖化など、さまざまな要因が自然と社会の環境にどのような影響を与えているのか、それに対してどのような提起をすればいいのか、ということが見えてくる。それを世界にフィードバックしていくということなんです。南の島で調査の後にはうまいビールを飲みたいというのがありますけど」。照れた笑顔からは、南島の風を含んだようなあたたかさが伝わってきた。

研究室から



SCHOLAR
INTERVIEW

出土品が伝える先人たちの息吹

～小規模島嶼部における先史・原史時代文化適応の考古学的研究～

大隅諸島と奄美諸島の間のおよそ160kmにわたり、*有人7島と無人5島から成るトカラ列島。海に隔絶されているがゆえに育まれた特異な自然環境、独特の文化が今なお継承される地域である。だが、その厳しい地理的環境ゆえに、これまで考古学の情報をほとんど得られていない地域であった。数年前、たまたま訪れた横当島で採集した焼き物の欠片に導かれるように、トカラ列島の考古学調査に取り掛かった新里先生の研究活動について伺った。

*有人7島：口之島、中之島、諏訪之瀬島、平島、悪石島、小宝島、宝島／無人5島：臥蛇島、小臥蛇島、小島、上ノ根島、横当島

無人の横当島で、 沖縄の陶器と出会う

埋蔵文化財調査センターの教員を務める新里先生は、学内整備事業に関わる発掘調査や出土品の整理、研究、公表、活用など多岐にわたる業務に携わる。その合間を縫って、南西諸島島嶼部の研究を続けてきた。トカラ列島最南端の無人島・横当島よこあてじまに渡ったのは2014年10月。本号の表紙でも紹介している鹿児島大学南西島弧地震火山観測所による横当島調査(地震計と地殻変動計測のデータ収集、機器メンテナンス)に同行したのがきっかけだった。

「軽い気持ちで」島を歩いてみたところ、沖縄の焼き物(壺屋焼)の欠片を見つけた。「驚きの発見でした。横当島で、沖縄の人と会った感じがです」。かつて読んだ『南島雑話』(幕末の薩摩藩士・名越左源太によって書かれた奄美の自然・文化・生活に関する記録)の中に記されている琉球人の横当島来訪についての記録とも合致した。沖

縄出身の新里先生にとって、故郷の先人の息づかいを感じる体験だったに違いない。その発見を機に、トカラ各島の表面分布調査(畑や家の敷地などの遺物を拾い集める調査)に向向くとともに論文を執筆し、2015年度の科
研費を得て、本格調査に着手した。

もの言わぬ物から 見えてくる人の姿

「二つ二つの島を歩いて表面調査を行いました」。本土からトカラ列島へのアクセスは通常週2便の定期船のみ。調査しては鹿児島へ帰り、改めて次の島に向向くという行程を繰り返した。全島を調査した後、中之島の発掘を2016年に実施。多数の出土品を得た。中でも越州窯系青磁水注の発見は、考古学史に残る。「これまでは福岡、長崎と喜界島しか見つかっていない。それが中之島で見つかったということは、福岡、長崎とトカラ、喜界島を結ぶ交流ラインがあった証拠になります」。中之島ではこの



Scholar Interview

新里 貴之 助教

学内共同教育研究学域学内共同教育研究学系
埋蔵文化財調査センター

Profile 新里 貴之(しんざと・たかゆき)

沖縄国際大学文学部社会学科卒業。学術博士・鹿児島大学・2006年3月

■所属学会: 沖縄考古学会、奄美考古学会、鹿児島県考古学会、考古学研究会、日本考古学協会、日本人類学会

■専門分野: 考古学

■研究テーマ: ○南西諸島先史時代の研究 ○南西諸島の葬墓制に関する研究 ○南西諸島と周辺地域の交流・交易に関する研究



ほか石器や須恵器、弥生土器も出土した。「いまトカラの島々は、人が少ない地域になっています。けれども2000年くらい前の弥生時代には、奄美、種子島、鹿児島、熊本、福岡、さまざまな地域の物が入り込んできている。いま想像するより人の出入りがあったということなんです。島伝いに行き来する人たちの交差点みたいな状態だったことが窺えるのです」。もの言わぬ物と対話を重ねる先生には、生き生きとした先人の姿が見えているのかもしれない。

そのほか、平島では明治時代の漂着船から回収された中国の器(清朝磁器)、臥蛇島では縄文時代の土器や中世の中国陶磁器を発見した。新里先生は、出土品の分析とともに、民俗学的資料や古文書などの史料、聞き取り調査などを合わせて解明していく。「未知の物事を検証しようとする時、経験がないことは想像することとさえてできません。経験を広げることと、出土品を見極めるトレーニングは欠かせません」

考古学者の使命

歴史的大発見より、もっと大切な考古学者の使命は「その土地の人たちが自分たちの郷土に誇りを持つためのきっかけづくり」だと先生は考えている。「出土品を中之島小中学校で展示し、子どもたちに、触れ、見てもらいました。こんな歴史が島にあるとは、と子どもたちは相当感動して、『島んちゅ』たちが故郷に誇りを持ってくれたら嬉しいです」。夢は、トカラ各島に、特徴的な出土品の展示場を作ることだ。「考古学には結構コアなファンが多いんです。研究者や考古学ファンを対象とした観光の目玉にもなるはずなので、きつと実現させたいです」

学生たちへのメッセージを尋ねると「二つのことを突き詰めると、無駄なように見えることもどこかでピンとくる瞬間がある。なんでもいいかから突き詰めてみてほしい」と、自らの体験から導かれた明快な言葉が返ってきた。



学生表彰 (平成28年度)

学長表彰 学業や課外活動において優秀な成績をおさめた個人・団体に対し学長表彰が行われます。

被表彰者	表彰理由
団体名 鹿児島大学SCP 落合礼智、高橋善彦、遠矢夏妃、南ひかり(法文学部4年) 田元幸奈、岡部航大、田代雄也、若元謙太郎(法文学部3年) 上国利優希、上村碧、山口華奈(法文学部2年)	第6回毎日地球未来賞 奨励賞(H28.12.20)
前田 和樹(教育学部教育学3年)	九州大学吹奏楽連盟主催 第14回指揮者コンクール 金賞(H28.2.26)
下中 葵(教育学部美術専修4年)	第92回白日会展 白日賞(H28.3.16-28)
南園 亜美(教育学部美術専修4年)	第70回記念二紀展 入選(H28.10.12-24) 第63回県美展 奨励賞(H28.5.14-22)
中尾 隼太(教育学部保健体育専修4年)	ラクビー7人制日本代表選出(H28.12.2-11)
小野 桃佳(教育学部美術専修3年)	第37回筑後市美術展 筑後市長賞(H28.12.13-18)
祝迫 健人(理学部生命科学科4年)	4th International Kyusyu Colloid Colloquium Poster Award(H28.9.28)
吉田 健之(理学部物理科学科4年)	第8回半導体材料・デバイスフォーラム ポスター発表奨励賞(H28.11.5)
吉田 奈都美(医学部保健科学科4年)	第16回全国障害者スポーツ大会希望園いわた大会陸上競技 女子走り幅跳び 第1位 女子100m走 第1位(H28.10.22-23)
永田 香織(歯学部歯学科1年)	第48回全日本歯科学生総合体育大会水泳部門 女子50メートル バタフライ 2位 新人戦 女子50メートル バタフライ 3位 女子100メートル バタフライ 3位(H28.8.9-10)
神園 藍(歯学部歯学科4年)	第43回APDSA大会 最優秀賞(H28.8.12) 第22回SCR P 最優秀賞(H28.8.19) SCR P世界大会に日本代表として出場(H28.10)
高崎 真奈(人文社会科学部研究科博士前期課程2年)	平成27年度刑政政策に関する懸賞論文 優秀賞(H28.1.19)
床次 辰樹(理工学研究科博士前期課程2年)	化学工学会第81年会 学生奨励賞(H28.3.14)
傍田 啓介(理工学研究科博士前期課程1年)	ドコモ近未来社会学生コンテスト 優秀賞(H28.2.27)
根比 瞭(理工学研究科博士前期課程1年)	ドコモ近未来社会学生コンテスト 優秀賞(H28.2.27)
花田 涼(理工学研究科博士前期課程2年)	アメリカ化学会(ラングムアー) ベストポスター賞(H27.11.24-27) 4th International Kyusyu Colloid Colloquium 優秀ポスター賞(H28.9.28)
江平 翔(理工学研究科博士前期課程2年)	電気学会 優秀論文発表賞(H28.1.15)
出水 直人(理工学研究科博士前期課程2年)	電気学会 優秀論文発表賞(H28.1.15)
四元 信一郎(理工学研究科博士前期課程2年)	電気学会 優秀論文発表賞(H28.1.15)
田口 茂樹(理工学研究科博士前期課程1年)	平成28年度日本金属学会 日本鉄鋼協会 軽金属学会九州支部合同学術講演大会 ポスター発表優秀賞(H28.6.11)
辻井 優伸(理工学研究科博士前期課程2年)	2016 Thailand-Japan MicroWave The Thailand-Japan MicroWave 2016 Young Researcher Encouragement Award(H28.6.10) Student Design Competition Third Place(H28.6.11)
瀧野 皓志(理工学研究科博士前期課程1年)	2016 Thailand-Japan MicroWave Student Design Competition Third Place(H28.6.11)
原田 晃行(理工学研究科博士前期課程2年)	第65回高分子学会年次大会 優秀ポスター賞(H28.5.27) 日本ソルゲル学会第14回討論会 ベストポスター賞(H28.8.9) Joint Symposium of JTBW2016 & KNJS2016 Award for the excellent student poster presentation(H28.11.2) 第53回化学関連支部合同九州大会 ポスター賞(H28.11.18) The 11th SPSJ International Polymer Conference (IPC2016) IPC 2016 Young Scientist Poster Award(H28.12.16)
広原 知忠(理工学研究科博士前期課程2年)	第53回化学関連支部合同九州大会 ポスター賞(H28.11.18)
今井 健太(理工学研究科博士前期課程2年)	第20回ケイ素化学協会シンポジウム 優秀ポスター賞(H28.10.7)
齋藤 卓磨(理工学研究科博士前期課程2年)	化学工学会九州支部平成28年度学生賞審査会 学生賞(修士課程の部)(H28.7.2)
濱崎 研悟(理工学研究科博士前期課程1年)	第4回がん代謝研究会 優秀ポスター発表賞(H28.7.8)
坂口 智広(理工学研究科博士前期課程1年)	第27回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会 ポスター賞(H28.7.23)
松本 光(理工学研究科博士前期課程2年)	第89回日本生化学会大会 若手優秀発表賞(H28.9.27)
阿多 優里菜(理工学研究科博士前期課程1年)	Joint Symposium of JTBW2016 & KNJS2016 Award for the excellent student poster presentation(H28.11.2)
小林 領太(理工学研究科博士前期課程1年)	日本金属学会2016年春期講演大会 優秀ポスター賞(H28.3.24)
福田 雄介(理工学研究科博士前期課程2年)	日本金属学会2016年春期講演大会 優秀ポスター賞(H28.3.24)
向 大輝(理工学研究科博士前期課程1年)	第53回化学関連支部合同九州大会 若手研究者奨励賞(H28.7.2)
高本 隼(理工学研究科博士前期課程1年)	Joint Symposium of JTBW2016 & KNJS2016 Award for the excellent student poster presentation(H28.11.2)
城島 龍一郎(理工学研究科博士前期課程2年)	日本材料学会 第54回高温強度シンポジウム ベストプレゼンテーション賞(H28.12.9)
塚元 崇博(理工学研究科博士前期課程2年)	日本材料学会九州支部 第3回学術講演会 JSMS-Kyushu, Young Researcher Award 2016(H28.12.10)
平石 貴将(理工学研究科博士前期課程2年)	平成28年度電気産業応用部門大会 YPC優秀発表賞(H28.8.31) IEEE IAS Japan Chapter 2016 Young Engineer Competition Award(H28.8.31)
成田 暉(理工学研究科博士前期課程2年)	平成28年度電気・情報関係学会九州支部連合大会 優秀論文発表賞(H28.9.29-30)
甲斐 峻大朗(理工学研究科博士前期課程1年)	平成28年度電気・情報関係学会九州支部連合大会 優秀論文発表賞(H28.9.29-30)
西山 知宏(理工学研究科博士前期課程1年)	11th Korean Rural Architecture Competition 2016 韓国農村水産部長官賞(大賞)(H28.10.28)
塚崎 克也(理工学研究科博士前期課程1年)	日本建築学会 形態創生コンテスト2016 入選(H28.10.27)
中村 和史(理工学研究科博士前期課程1年)	日本建築学会 形態創生コンテスト2016 入選(H28.10.27)
高橋 賢司(理工学研究科博士前期課程2年)	日本建築学会 形態創生コンテスト2016 入選(H28.10.27)
西田 哲朗(理工学研究科博士前期課程2年)	日本建築学会 形態創生コンテスト2016 入選(H28.10.27)
野澤 賢(理工学研究科博士前期課程1年)	化学工学会第48回秋季大会 第48回秋季大会分題プロセス部会ポスターセッション ポスター賞(H28.9.7)
富田 英和(理工学研究科博士前期課程2年)	日本エネルギー学会西部支部 第1回学生・若手研究発表会 学生賞(口頭発表の部)(H28.11.23)
宮地 みどり(理工学研究科博士前期課程2年)	日本エネルギー学会西部支部 第1回学生・若手研究発表会 学生賞(ポスター発表の部)(H28.11.23)
寺地 晃佑(理工学研究科博士前期課程1年)	化学工学会粒子・流体プロセス部会流動層分科会 第22回流動化・粒子プロセスシンポジウム 優秀ポスター賞(H28.12.9)
藤元 祐行(理工学研究科博士前期課程1年)	日本防錆技術協会 第36回防錆防食技術発表大会 若手技術者優秀発表賞(H28.7.8)
田中 亮佑(理工学研究科博士前期課程2年)	第6回バイオメトリクスと認識 認証シンポジウム SBRA2016 SBRA優秀発表賞(H28.11.17)
横田 璃里(理工学研究科博士前期課程2年)	第40回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム 優秀ポスター賞(H28.8.27)
前田 樹里(理工学研究科博士前期課程1年)	第40回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム 最優秀ポスター賞(H28.8.27)
岸本 聡(理工学研究科博士後期課程1年)	日本ペプチド学会 第48回若手ペプチド夏の勉強会 優秀講演賞(H28.8.2)
団体名 ち〜くま 石原直直、北村一稀、野口就平、平野昂志、吉岡啓太(工学部4年) 瀬野秀英、高功治、室屋祐成(理工学研究科博士前期課程2年) 井上家、藤村修平、松ヶ野朋亨(理工学研究科博士前期課程1年)	ETロボコン2016九州南地区大会 デベロッパー部門アドバンスクラス 総合優勝、競技優勝、モデル審査Gold Model、九州経済産業局長賞(H28.9.24) ETロボコン2016 チャンピオンシップ大会 デベロッパー部門アドバンスクラス 競技第4位(H28.11.16)
小山 秀美(農学研究科2年)	17th AAAP ANIMAL SCIENCE CONGRESS Young Scientists Award / JSAS Excellent Presentation Award(H28.8.25)
松本 祐樹(農学研究科2年)	公益社団法人日本技術士会九州本部・鹿児島県支部共催 九州本部技術士論文発表会 優良賞(H28.11.12)
西澤 芳明(医歯学総合研究科博士課程2年)	NEDO Technology Commercialization Program ファイナリスト賞(H28.12.8)
山本 祐士(医歯学総合研究科博士課程1年)	第33回日本障害者歯科学会学術大会 日本障害者歯科学会学術大会優秀発表賞(H28.10.2)
伍 樹松(連合農学研究科3年)	Food for Health International Conference (FOHIC2016) Oral Presentation Award(H28.3.21-23)
矢野 敏史(連合農学研究科3年)	Food for Health International Conference (FOHIC2016) Oral Presentation Award(H28.3.21-23)
団体名 SATSUMAロケット研究会	第12回種子島ロケットコンテスト ロケット部門(ペイロード有翼滞空)優勝 ベストデザイン賞(川崎重工賞)(H28.3.4)
団体名 鹿児島大学学生会吹奏楽団	第43回鹿児島県吹奏楽アンサンブルコンテスト 金賞(H28.12.18)
団体名 鹿児島大学学生会弓道部	第60回西日本学生弓道選手権大会 男子団体:準優勝(H28.5.21-22) 第66回九州地区大学体育大会 男子団体:第4位、女子団体:第7位(H28.7.9-10) 第64回全日本学生弓道選手権大会 男子団体:ベスト8(H28.8.9-11) 第71回国民体育大会 女子団体(近的):第5位(H28.10.8-10) 第54回九州学生弓道選手権大会 男子団体:優勝、男子個人:第9位、女子個人:優勝(H28.10.6-7) 第64回全日本学生弓道王座決定戦 男子団体:ベスト4、皆中賞:2名(H28.11.19-20) 第62回東西学生弓道選抜対抗試合 男子西軍:優勝(H28.11.20) 第52回九州学生弓道新人戦指宿大会 男子団体:優勝(H28.12.3-4)
団体名 医学部保健科学サークル ピア☆びあ☆ごしま	平成28年度未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー 内閣府特命担当大臣表彰(H28.12)
団体名 鹿児島大学医歯学部陸上競技部	第71回九州陸上競技選手権大会 男子4×100mリレー3位(H28.8.20)
団体名 鹿児島大学医学部バドミントン部	西日本コメディカル学生バドミントン大会 女子ダブルス優勝(H28.8.7)
団体名 歯学部フットサル部	第48回全日本歯科学生総合体育大会 フットサル部門第1位(H28.8.4)



鹿児島大学稲盛賞(平成15年度から)

本学を卒業された京セラ株式会社名誉会長 稲盛和夫氏のご寄附による学生表彰制度で、①学業に専念し成績優秀で品行方正な最終年次の学生、②社会の期待にこたえるような業績を挙げた学生、③その他同等以上の表彰に値する行為等があったと認められる学部学生及び大学院学生を表彰するものです。

学部	学科・課程		受賞者
法文学部	法政策学科	4年	姫野 有香
	経済情報学科	4年	鹿島 優香
教育学部	学校教育教員養成課程	4年	中野 弘章
理学部	数理情報科学科	4年	水間 浩太郎
	地球環境科学科	4年	栗林 拓矢
医学部	医学科	6年	津田 峻基
	保健学科	4年	高比良 亮郎
大学院	専攻		受賞者
教育学研究科	教育実践総合専攻	2年	岩切 秀央

学部	学科・課程		受賞者
歯学部	歯学科	6年	井沢 一樹
工学部	電気電子工学科	4年	頼田 家維
	海洋土木工学科	4年	花立 博志
農学部	生物環境学科	4年	中村 優里花
	獣医学科	6年	吉田 茜
水産学部	水産学科	4年	岩切 友絵
	水産学科	4年	五島 露子

鹿児島大学工業倶楽部賞(平成17年度から)

社団法人鹿児島県工業倶楽部との包括連携協力協定の目的に基づき設けられた学生表彰制度で、鹿児島県地域産業の発展に貢献する優秀な研究業績等を挙げた大学院研究科に在学する最終年次の学生を表彰するものです。

農学研究科修士課程	2年	島元 沙希
水産学研究科修士課程	2年	山根 万知

進取の精神学生表彰(平成23年度から)

学生憲章の趣旨に即し、困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を実践し、優れた活動実績や業績等を収めた学生及び学生団体を表彰します。

	団体・個人名	理由等
優 秀 賞	海 外 研 究 会	海外インターンシップの企画・実施活動
	K A D A I I N F O	Website「KADAI INFO」の企画・運営活動
準 優 秀 賞	木 田 夕 菜	論文、朗読などの表現活動への取り組み

経済支援制度 (平成28年度)

大学独自の制度

1 種村完司私費外国人留学生奨学金(平成22年度から)

本学名誉教授で元教育・学生担当理事の種村完司氏からの寄附金を原資として、本学に在籍するアジア諸国からの私費外国人留学生を支援するため、平成22年度に設立されました。今年度は5人の私費外国人留学生に20万円を支給しました。

工 学 部	2人	中国
人文社会科学部研究科	2人	中国
連合農学研究科	1人	パナマ

2 ボランティア支援センターの学生支援(平成23年度から)

災害ボランティア活動を行う学生に対する経済的支援として、平成23年度に「鹿児島大学災害ボランティア活動支援事業実施要項」を定め、災害ボランティア活動費の一部助成を行う制度を開始しました。同制度により、平成28年度は、熊本地震や東日本大震災の復興地等で様々な支援活動を行った学生40人(H29.1月末現在)に対して活動費の助成を行いました。

国等の制度

1 授業料免除

	学部・研究科	司法政策	博士後期
前期	全額免除	544人	0人
	半額免除	882人	1人
後期	全額免除	629人	0人
	半額免除	933人	1人

2 奨学生

(平成28年5月1日現在)

	日本学生支援機構	各種団体、育英会	計
学部	3,893人	127人	4,020人
大学院(修士・博士前期)	253人	18人	271人
大学院(博士・博士後期)	39人	30人	69人
大学院(専門職)	12人	0人	12人
合計	4,197人	175人	4,372人



学生及び若手教員への海外派遣支援等 (平成28年度)

鹿児島大学学生海外研修支援事業(平成22年度から学長裁量経費により旅費を支援)

大学憲章に基づき、自主自律と進取の精神を併せ持ち、かつ社会の発展に貢献し、国際社会で活躍できる人材育成を図るため、学生の海外研修を支援しました。

部局	授業科目名	研修先(国名)	支援人数	部局	授業科目名	研修先(国名)	支援人数
教育センター	太平洋島嶼学特論	ミクロネシア連邦・米国(グアム)	5	理工学研究科	理工系国際コミュニケーション海外研修	米国	11
	東アジア社会の共通課題は何か?(日韓研修)	韓国	10	医学部	選択実習(脳神経外科)	米国	2
	国際協力体験講座-ミャンマーコース-	ミャンマー	6		選択実習(脳神経外科)	インドネシア	1
	国際協力体験講座-タイコース-	タイ・ラオス	14		選択実習(脳神経外科)	カナダ	1
	北米におけるグローバル人材育成	米国	8	保健学研究科	緩和ケア論	韓国	6
	南米における進取の気風研修計画	ブラジル	11		基礎看護・地域看護学特別研究	米国	1
	イスラームの多様性を学ぶ	イラン	10	歯学部	周産期医療論	ニュージーランド	7
	グローバル人材育成(雲南)	中国	8		歯学研究Ⅰ	カナダ	4
	海外研修基礎コース in カリフォルニア	米国	9	農学部	歯学研究Ⅰ	インドネシア	3
	海外研修基礎コース in ハワイ	米国	30		海外森林・林業事情特論、国際森林論	ドイツ	10
海外研修基礎コース in 東南アジア	シンガポール	11	農学研究科	食料環境システム学Ⅲ	タイ	17	
国際感覚を持つバイテク人材育成	タイ	9		食料環境システム学特論Ⅱ	タイ	5	
法文学部	法学特殊講義(外国の法を学ぶ)	カナダ		7	国際バイテク・リーダー育成	タイ	3
	フィールド学実習(文化人類学)	韓国	17	水産学部	実用英語(海外研修)および海外研修	フィリピン	28
	海外短期留学Ⅰ	米国	2		水産学研究科	Tropical Fisheries	フィリピン
教育学部	国際理解教育調査研究Ⅰ	韓国	5	共同獣医学部		獣医学特別研修	台湾
	理科教育特講	ドイツ	3		獣医学特別研修	米国	1
教育学研究科	中等理科教育学特論演習	ドイツ	1				
合計							283

協定校への学生留学の支援事業(平成23年度から学長裁量経費により旅費を支援)

部局	派遣大学	留学先(国名)	人数	部局	派遣大学	留学先(国名)	人数
法文学部	ジョージア大学	米国	1	教育学部	ボン大学	ドイツ	1
	リンシェーピン大学	スウェーデン	2		江陵原州大学校	韓国	1
	シドニー工科大学	オーストラリア	1	理学部	ジョージア大学	米国	1
	レンス第2オート・プルトーニュ大学	フランス	2	理工学研究科	バレンシア工芸大学	スペイン	2
	釜山大学校	韓国	3	農学部	リンシェーピン大学	スウェーデン	1
	ミュンヘン大学	ドイツ	2		ボゴール農科大学	インドネシア	1
教育学部	シドニー工科大学	オーストラリア	1	合計			19

鹿児島大学若手教員海外研修支援事業(平成21年度から学長裁量経費により旅費・滞在費を支援)

次世代を担う若手教員の海外の教育研究機関における研修を支援することにより教育研究能力等の向上を図り、本学の教育研究の国際的通用性・共通性の向上に資することを目的として設立されました。

部局	人数	研修先(国名)	研修題目
法文学部	1	米国	社会心理・行動研究に関する進化論的視点の洗練と研究ネットワークの構築
教育学部	1	フランス	メイエルソン文書の研究～フランス歴史心理学の形成～
理工学研究科(理学系)	1	米国	アルマ望遠鏡、VLA望遠鏡を用いた晩期型星星周領域の研究
理工学研究科(工学系)	1	オーストラリア	地盤災害に関する数値解析プログラムの開発と土木工学の研究教育方法や研究教育体制に関する研修
農学部	1	米国	窒素安定同位体を用いた樹木の窒素吸収経路および窒素吸収量の推定手法の修得
共同獣医学部	1	カナダ	新規腸管漏出モデルマウスを利用した機能性食品によるアレルギー発症抑制メカニズム
合計	6		



全学必修科目「大学と地域」スタート

鹿児島大学では、2014年度に文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC)」の採択を受け、地域課題の解決や地域貢献意欲を持つ人材の育成に取り組んでいますが、その一環として地域に学ぶ科目「大学と地域」を開講。2016年4月12日に、動画による前田芳實学長の講話が第1回目の講義として行われました。

これは、1年生全員(約2,000人)が共通教育科目における必修科目として、鹿児島に関する10分野(※)の中から所属学部にとられることなく一つを選択し受講するものです。

本科目は、(1)大学の学修に必要な論理的思考力や課題発見・解決の能力を醸成、(2)地域の現状・課題等を学ぶことで地域志向マインド(地域貢献の意欲)を持った人材を育成、(3)地域志向マインドの醸成に必要な地域の特性、優位性、発展可能性の理解を促進、(4)上記(1)～(3)を通して地元への就職意欲を増進することを目的としています。

また、鹿児島の事情をより深く理解するため、大学教員だけでなくCOC事業の連携自治体(鹿児島県・鹿児島市・薩摩川内市・与論町)の職員も各分野から講師として参加することとなっています。

鹿児島大学では、これまでも地域とともに社会の発展に貢献する大学として、鹿児島の文化や自然、あるいは産業などについて学ぶ地域志向科目を開講していますが、新たにスタートした「大学と地域」は、全学必修科目(すべての学部生にとって卒業要件)であることに加え、鹿児島に関する10分野という幅広い分野の現状や地域課題などについて、全学の教員及びCOC事業の連携自治体の職員等が授業に参画するところに特徴があります。授業を通じ、自ら主体的かつ論理的に考える力と地域貢献意欲の醸成を図っています。今後、従来の地域志向科目を再編し、「大学と地域」を基盤とする「かごしま地域教育プログラム」を構築し、地域貢献意欲と地域で活躍する能力を備えた人材の育成を推進します。

※10分野

- ①防災
- ②医療
- ③まちづくり・観光
- ④エネルギー
- ⑤農業
- ⑥森林・林業
- ⑦動物・畜産業
- ⑧水産業
- ⑨環境・島唄
- ⑩まちおこし・教育



第1回授業 学長講話の様子

鹿児島大学と熊本大学の野球部OB戦が開催されました

2016年11月3日、鹿児島市の鴨池市民球場で鹿児島大学と熊本大学の野球部OB戦が行われました。この試合は、旧制七高(鹿児島大学)、旧制五高(熊本大学)の名称から五高七高戦とも呼ばれており、1906年(明治39年)から毎年この時期に行われているもので、110年の歴史があります。

昨年は、熊本地震の影響で開催が危ぶまれましたが、熊本大学からの強い要望で伝統の一戦を開催することができ、両大学の野球部OB合わせて70人が参加しました。

鹿児島大学は、残念ながら10対23で敗れました。鹿児島大学硬式野球部OBで監督兼事務局長の児玉勇さんは、「この交流戦には、大学を卒業してから35回以上は参加しています。交流戦ではつらつとしたプレーを通じて交流が深まり、皆さんから元気もらっています。これからも体力が続く限り参加したいと思います」と想いを語りました。野球を通じた伝統の交流はこれからも続いていきます。



両校野球部OB

鹿児島商工会議所との包括連携協定を締結

鹿児島大学は、2016年4月7日、鹿児島商工会議所との包括連携協定を締結しました。併せて、鹿児島商工会議所と鹿児島国際大学の包括連携協定も締結されました。

本学からは、前田芳實学長、住吉文夫理事・副学長(研究担当)、清原貞夫理事・副学長(教育担当)が出席し、鹿児島商工会議所からは岩崎芳太郎会頭、鹿児島国際大学からは津曲貞利学長をはじめとする関係者らが出席し、協定内容の「地域産業界が求める人材の育成」、「学卒者の地元就職率向上と持続的定着」等が確認された後、協定書に署名が行われました。

岩崎会頭から、人口減少、人材流出、中央との格差などの問題を抱える地方が存続していくため、産学の協働は地方の継続性を維持するためにも必要であり、そのなかで、鹿児島大学、鹿児島国際大学等の教育機関が主体性を持って地元経済界と協働していくことに大きな期待を寄せていることが述べられました。

前田学長から、今後とも積極的なパートナーシップを築き、地方創生の取り組みを加速させて地域活性化に貢献したい旨が述べられました。



左から前田学長、岩崎会頭、津曲学長

教育学部4年中尾隼太さんが7人制ラグビー 日本代表遠征メンバーに選出されました

教育学部4年生でラグビー部の主将を務める中尾隼太さんが、7人制ラグビー国際大会の男子セブンズ日本代表の一員として、2016年12月2日、3日のドバイ大会(UAE)と、12月10日、11日の南アフリカ大会に遠征しました。中尾さんは、ドバイ大会でのパフォーマンスが評価されて、南アフリカ大会遠征メンバーに引き続き選出されたものです。

ラグビー部は、昨年、第66回全国地区対抗大学大会準優勝、第46回鹿児島県7人制大会優勝、今年1月の第67回全国地区対抗大学大会で準優勝を果たすなど着実に力を伸ばしています。



前列中央 賞状を手にする中尾さん

優秀な成績をおさめた学生を表彰

2017年2月23日、スポーツ活動で活躍と実績、専門の学術分野で高い評価を受けた研究実績など、優秀な成績をおさめた学生個人58人、団体9組への学長表彰が行われ、前田芳實学長が、受賞者代表の中尾隼太さん(教育学部4年)に表彰状を授与しました。

前田学長の「みなさんのチャレンジ精神に心からの敬意を表しますとともに、その活躍を大変誇りに思っています。みなさんの努力の積み重ねと実績は、後輩のよき模範となり目標にもなるものです」との祝辞に続き、中尾さんが「世界で活躍できる選手となるために、小さな積み重ねを大切に心技体を鍛え上げる必要を感じました。また、多くの方々への応援、ご指導を受けてこの場に立てたことに感謝し、その気持ちを忘れず、鹿児島大学で学んだことに誇りを持って、今後も努力をしていく所存です」と受賞の喜びと新たな決意を語りました。

※受賞者については、16頁の学長表彰をご覧ください。



表彰状授与



馬場昌範教授、南日本文化賞、県知事賞を受賞

大学院医歯学総合研究科の馬場昌範教授が、第67回南日本文化賞(医療福祉部門)を受賞しました。2016年11月1日に城山観光ホテルで行われた贈賞式では、エイズ研究における卓越した業績と鹿児島に多いHTLV-I感染の治療研究、郷土の人材育成への多大な貢献など贈賞理由の報告があり、賞状と記念盾などが贈られました。

続いて、附属難治ウイルス病態制御研究センターの教授として20年以上の長きにわたりウイルス感染症における病態と治療法の研究で業績を挙げ、南九州における学術や医療の向上など多大な貢献に対し、県知事賞が贈呈されました。

受賞後、馬場教授は「これまでに国際抗ウイルス学会賞、日本エイズ学会賞などをいただきましたが、それ以上に今回の受賞は嬉しく思います。地域のために鹿児島大学で行ってきたことが認められたということは有難く、非常に光栄なことです」と喜びを語りました。



賞状を贈呈される馬場教授

先輩から後輩へ貴重なアドバイス「きばいやんせ、鹿大生2016!」

2016年12月17日、鹿児島大学就職支援センターは、企業経営者や地域のリーダーとして活躍されている本学卒業生7人が講師を務めるキャリア支援セミナー「きばいやんせ、鹿大生2016!」を学習交流プラザで開催し、学生や関係者など約70人が参加しました。

第1部では、自己紹介に続き、各講師がビジネスの心構えやグローバル人材として必要なこと、地域貢献のあり方、ダイバーシティの意味などについてテーマ別に語りました。話の中で、学生時代に休学しての海外経験や現在の会社を選んだ理由など、学生目線に立ったエピソードなども披露されました。

第2部は、座談会形式がとられ、講師から学生へのアドバイスと、就職に焦点をあてた意見交換が行われ、締めくくりとして、企業が求める人材や後輩への期待が講師から語られました。また、セミナー終了後に行われた懇親会には約30人の学生が参加。和やかな雰囲気の中、先輩方との親睦を深めました。

多様なフィールドで活躍される先輩方の人生観や仕事観を直接聞くことができ、参加学生にとって大きな刺激となりました。

■講師

- 高原 要次氏(1978年法文学部卒業) ラーニング・システムズ(株) 代表取締役社長
- 瓜生 博幸氏(1980年農学研究所修了) 三和倉庫(株) 取締役 専務執行役員
- 高宮 勝也氏(1979年法文学部卒業) 三菱電機(株) 常務執行役 国際本部長
- 湯之原 一郎氏(1978年農学部卒業) 始良市議会議員
- 井上 進氏(1980年農学部卒業) 丸和バイオケミカル(株) 代表取締役社長
- 山元 弥生氏(1979年農学部卒業) 東京都墨田区子育てサポーター
- 白石 吉行氏(1979年農学部卒業) (株)ふくれん 代表取締役社長



セミナー風景



座談会風景



(順不同)

個人寄附者様

- 【二十万円】 稲盛 和夫 様
- 【二十万円】 清川 康雄 様
- 新留 崇夫 様
- 伊東 祐二 様
- 伊牟田 均 様
- 【十万円】 野村 秀洋 様
- 石窪 奈穂美 様
- 【八万円】 岩井 久 様
- 【七万円】 宮本 篤 様
- 近藤 英二 様
- 【五万円】 川畑 秋馬 様
- 山下 正美 様
- 【四万円】 山本 吉朗 様
- 【二万円】 吉崎 由美子 様
- 通山 裕樹 様
- 岩出 清弥 様
- 川井田 健一 様
- 鮫島 宗一郎 様
- 今村 敏治 様
- 本 亜希子 様
- 【二万五千円】 岩元 善巳 様
- 【二万円】 撰田 克也 様
- 永田 祥二 様
- 宇都山 清孝 様
- 占部 歌子 様
- 波平 元辰 様
- 川原 菊二 様
- 北野 菊夫 様
- 山下 憲二郎 様
- 堤 由美子 様
- 【八千円】 大中 浩己 様
- 【五千円】 河内迫 純子 様
- 河内迫 夕市 様
- 【ご芳名のみ掲載希望の寄附者様】
- 大野 隆真 様
- 大塚 高浩 様
- 竹迫 清 様
- 船津 雅彦 様
- 酒見 公夫 様
- 赤崎 安昭 様
- 【掲載を希望されない寄附者様】
- 三十名

(順不同)

団体等寄附者様

- 【一千万円】 岩崎育英文化財団 様
- 【三百万円】 鹿児島大学医学部同窓会鶴陵会 様
- 【二百五十万円】 株式会社鹿児島銀行 様
- 【百五十万円】 セイカ食品株式会社 様
- 【百万円】 城山観光株式会社 様
- 一般社団法人 鹿児島県建設業協会 様
- 濱田酒造株式会社 様
- 共同獣医学部紫友同窓会 様
- 【五十万円】 鹿児島総合警備保障株式会社 様
- 株式会社渡辺組 様
- 中央工業株式会社 様
- 株式会社カミチクホールディングス 様
- 三和酒造株式会社 様
- 河内源一郎商店 様
- 霧島木質発電株式会社 様
- 日本澱粉工業株式会社 様
- 阪東機工株式会社 様
- 恵和会 白浜病院 様
- 株式会社省力化技研 様
- 鹿児島ヤクルト販売株式会社 様
- 薩摩酒造株式会社 様
- 【三十六万七千円】 鹿児島銀行契友会 様
- 【三十万円】 清川 和彦 様
- 【二十万円】 (株)株式会社タイヨー代表取締役社長 様
- 株式会社トヨタレンタリース鹿児島 様
- 坂元醸造株式会社 様
- 和敬会 平和台病院 齊之平 和夫 様
- 株式会社南日本総合サービス 様
- 【十万円】 トヨタカローラ鹿児島株式会社 様
- インフラテック株式会社 様
- 株式会社東条設計 様
- 鹿児島トヨペット株式会社 様
- 株式会社エフワン 様
- 株式会社ニシムタ 様
- 薩摩川内市役所 北辰会 様
- 【五万円】 医療法人村上歯科 様
- 理事長 村上 慎一郎 様
- 【三万円】 医療法人七徳会争王病院 様
- 【二万円】 医療法人山形矯正歯科医院 様
- 理事長 山形 圭一郎 様
- 【団体等名のみ掲載希望の寄附者様】
- 南国殖産株式会社 様
- 旭工業株式会社 様
- サツマ酸素工業株式会社 様
- 株式会社ヒガシマル 様
- 株式会社南給 様
- 株式会社エルム 様
- 株式会社九州タブチ 様
- 株式会社建設株式会社 様
- 鎌田建設株式会社 様
- 医療法人腎愛会 理事長 上山達典 様
- カクイ株式会社 様
- ネットトヨタ鹿児島株式会社 様
- 株式会社カクイックス 様
- 株式会社フェニックス 様
- 中川運輸株式会社 様
- 株式会社しんぶく 様
- 本坊酒造株式会社 様
- 【掲載を希望されない寄附者様】
- 十六企業・団体

平成29年3月 国立大学法人鹿児島大学 学長 前田芳實

鹿大「進取の精神」支援基金へのご協力を賜りました皆様にご挨拶申し上げます。

ご寄附いただきました皆様方への感謝の意を込めまして、ご芳名等を掲載させていただきます。(平成29年1月31日までの寄附者様)

なお、ご意向により、ご芳名等の掲載をご希望されない寄附者様につきましては、本誌に掲載いたしておりません。

今後とも、鹿児島大学へのご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

鹿大「進取の精神」支援基金へのご寄附のお願い

鹿児島大学は、地域活性化の中核的拠点として、学生のグローバル教育の推進や地域に貢献する人材の育成など教育研究支援の強化に取り組むため、鹿大「進取の精神」支援基金を創設し、寄附のご協力をお願いしております。

つきましては、本基金の趣旨にご賛同いただき、皆様のご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

なお、本学への寄附につきましては、所得税法、法人税法上の優遇措置の対象となります。

お問い合わせ先 鹿児島大学学長戦略室 TEL:099-285-3101, 3102 FAX:099-285-7034

E-mail: s-kikin@kuas.kagoshima-u.ac.jp

基金ホームページ: <https://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/>



進め！ 農大生！ STUDENT INTERVIEW

福井美乃さん

(大学院連合農学研究科 農水圏資源環境科学専攻1年・総合研究博物館)



世界の海からやってくる「ニューフェイス」たちの名付け親 ～気鋭の魚類学者を研究の道へ導いたのは文学への志～

「物語を書くには論理的な思考力が必要だ」と思い、理系へ進学しました。小学生の頃、ミヒヤエル・エンデの『モモ』に夢中になった福井さん。水産学部入学は作家への第二歩でした。学部では生物多様性を研究。卒業後、総合研究博物館の研究推進支援員を務める間に魚類研究の面白さに開眼し、大学院へ進学しました。標本作りやデータベース管理など、現在も博物館運営に携わりながら研究を続けています。

魚の名前は、基準となる標本を基に色彩やウロコなどの特徴が同じかどうかを判定(同定)して決めます。専門はベラ科。海に潜水して標本を採集するほか、国内外の研究者、博物館などから同定の依頼が舞い込みます。2015年から2016年にかけて、立て続けに新種を発見。ユリの名前に由来する「キスゲミヤビベラ」、武士の姿にちなむ「サカヤキホスジモチノウオ」など命名には文学乙女のセンスが光ります。

新種発見の秘密は「フィールド調査やワークショップ参加などのチャンスを貪欲に拾うことかな」と笑います。ひたむきな情熱と繊細な感受性の持ち主の元には、命名を待つ無名の魚たちが続々訪れそうです。

座右の銘

「踏まれても根強く忍べ 道芝の やがて花咲く 春もくるらん」

小学校5年生の時、半成人式(10歳)に贈る「はなむけ」の言葉として、大好きな理科の先生が黒板に書かれた言葉です。「これからみなさん大変なこともあるでしょうけど、いつも笑顔で頑張ってください」という言葉とともに。それ以来、いつもこの歌が胸のどこかにあって「花咲け、花咲け」と思って過ごしています。



さっつんが行く!

SATTUN's Campus Sketches

鹿大キャンパス漫遊記



鹿児島大学公式マスコットキャラクター

さっつん

高気圧酸素治療装置
NHC-410A

“

Vol.06

鹿児島大学病院救命救急センター 高気圧酸素治療装置

鹿児島大学病院救命救急センターに設置された高気圧酸素治療装置は、室内を加圧する大型の装置です。高い気圧の中で純酸素を吸入することによって、酸素を組織の隅々まで供給し、組織の修復や臓器機能の回復、血流の改善などを促進します。減圧症(潜水病)や腸閉塞、突発性難聴、ガス中毒など救急時の治療のほか、骨髄炎や難治性潰瘍を伴う末梢血管障害、放射線壊死など、年間およそ2,000件の症例に用いられています。

従来、保険適応の治療に限られていましたが、2017年度よりプロスポーツ選手やアスリートを対象としたスポーツ外傷の治療(保険適応外)を開始する予定で準備が進められています。



📷 今号の表紙「理工学研究科附属南西島弧地震火山観測所」

地震予知・火山噴火予知に関する研究を推進することを目的として1991年に設置されました。1994年、鹿児島市吉野町寺山に新築、移転。眼前に鹿児島湾と桜島、さらに霧島、開聞岳を展望する、火山遠望観測に絶好なロケーションです。

当観測所は、九州南部から奄美大島周辺までを主な研究領域としています。フィリピン海プレートや沖縄トラフに関連する地震・火山活動について、従来のプレートテクトニクス論だけでは説明しきれない地球深部を含む現象の観測研究に取り組んでいます。九州大学、東京大学等と共同研究チームを結成し、琉球海溝、日向灘など海域の観測にも力を入れています。

観測のため屋上部分に設けられた丸窓から見る桜島は一幅の絵のようです。

